

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700146		
法人名	医療法人 元湧会		
事業所名	グループホーム わいず		
所在地	高知県四万十市中村大橋通6丁目7-5		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は市内にある医療機関の一部を改修して、狭いスペースではあるが、家族の思いや、入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、家庭的な環境を心掛けている。近所の店への買い物、理容店の利用そして散歩に出かけることで地域との交流が出来るように努めている。また、同一法人の老人保健施設での慰問や、行事に参加し交流するなどしている。毎日の計算ドリルや嚙下体操・機能訓練を日課とし、ADLの低下防止、認知症緩和につなげるとともに、毎月定期受診を行い健康管理に努め、医療連携体制も整っており、安心して暮らせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&jigyosyoCd=3970700146-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人の医療機関に隣接していることから、医療連携体制が充実しており、リハビリテーションにも力を入れて取り組んでいる。日々の食事は、食材を小さめに柔らかく調理して食べやすい工夫をし、毎月の行事では、皆でレストランで昼食をとる等、食べる事を大切に支援している。また、冬季には、感染症対策を兼ねて清掃に重点を置き、「自立心を大切に 健康で…」という基本理念に沿った運営に努めている。職員は利用者と目線を合わせた対応を心がけ、表情や仕草等の変化を見逃さないように努めている。また、利用者から教えられることも多く、日々のケアの積み重ねによって徐々に利用者との距離が近づくことに、職員は仕事のやりがいを感じている。個々の利用者の不安や混乱等には、その時の原因や誘因を把握し、職員同士の息の合ったチームケアにつなげている。利用者職員間、あるいは職員同士で、「お先に」「いただきます」「ありがとう」等の言葉と共に、微笑みや目線でコミュニケーションをとるなど、ほのぼのとした関係を作っている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、職員の意識付けのための心構えなどを明文化し、その中の一つを目標として掲げている。	利用者の人権尊重、自立心等の基本理念に基づく職員の心構えと実践方法を定めている。2年前から「まず、はい、から始め、ゆっくり楽しい毎日」という目標も掲げて取り組んでいる。ただし、理念を実践に結び付けたり、定期的に話し合うことが出来ていない。	理念は、ケアの拠り所であり、常に立ち戻る原点でもあるので、全職員で理念の共有を図り、日々の言葉かけ、態度、記録等のサービス提供場面に つなげる積極的な取り組みを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物には利用者と一緒にいたり、同じ理容店を利用して顔なじみの関係を作っている。又春には地域の防災活動に参加している。	町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒に見て、回付している。地域の防災訓練には、利用者2名と職員が参加し、起震車の体験や炊き出し等を住民と一緒にすることで、地域との交流関係を作ることに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の報告をし、改善のアドバイスをもらい、出来る事はすぐ対応し、サービス向上につなげている。	会議では事業所から運営状況や評価結果、目標達成計画等を報告している。地域の区長や民生委員の参加は得られていないが、他の参加者からは、助言や質問、意見等出されている。しかし、検討内容の、その後の経過が会議録に記載されていない。会議録は、全家族に送付している。	地域代表が参加しやすい日時の調整や、参加者に運営推進会議の意義や役割を理解してもらう取り組みを通して、より一層会議を活かしていくことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握してもらうとともに、日頃から何かあれば相談するようにしている。	運営推進会議で報告、相談するとともに、疑問点があれば、日常的に担当課に電話で相談している。介護保険担当者には、運営推進会議の委員選出の在り方について相談するなど関わりを持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員で個別ケアの統一の話し合いを行い、その際身体拘束をしないケアが出来ているか確認している。	職員は身体拘束に該当する行為は理解しているが、言葉による行動制限等があればその都度注意している。利用者が一人で外出する時には、見守ったりさりげなく同行するとともに、不安感や混乱があれば、原因や理由を把握してチームケアにつなげる等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ケアに伴うリスクについては、家族と話し合い理解を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々業務の中で行動や言動による虐待が、見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合は管理者一人の対応となるため、他の職員は理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な説明を行い、利用者や家族の不安・疑問点を解消し、理解と納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の行事の際には、家族のみでの話の場をもうけ、そこで出た意見を、その後の推進会議の議題にし話しあっている。	利用者には、その都度聞いたり、表情や仕草などから汲みとってケアに反映している。家族には、面会時や電話で聞いているが、家族同士での話し合いや、外部の相談機関について継続的な周知が出来ていない。また、意見、要望等の改善経過が十分に家族に伝えられていない。	家族は意見や要望等を、職員に言い出し難いものであることに配慮し、家族同士で話し合える機会づくりや、外部の相談窓口の周知に継続的に取り組むとともに、意見等に基づく改善経過や結果を伝える、内部の取り決め等の作成を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時、業務中気が付いた事など、その都度意見交換をしている。	ミーティングは随時開催し、前もって議題はないか職員に聞いている。また、日常的にも職員から多くの意見があり、事故防止対策や業務のやり方、年間行事等を、その都度話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況や業務態度、努力していることなどの把握に努め、働きやすい環境作りの配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置体制上、回数は多くないが、出来る限り外部研修や院内の勉強会に参加し、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会へ参加し、テーマに沿って勉強したり、情報交換また管理者・職員同士の交流を通して、サービス向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入居前に、施設を見学してもらい、本人との面談を通して、不安な事や要望などを聞き、安心して過ごしていただけるように話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からこれまでの状況や生活スタイル、要望などを傾聴し、出来る限り応えていけるよう、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス内容について、担当ケアマネジャーや相談員から情報を得るとともに、本人・家族の意向に沿うよう支援方針を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共有できる時間やコミュニケーションを大切にし、買い物や家事、畑仕事など職員と利用者が一緒に行い、人生の先輩として教わる姿勢忘れず、共に暮らしていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>何かあればその都度家族に報告し、意見をもらっている。他科受診時にはなるべく家族に付き添いを依頼し、共に支え合っていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親類・友人の面会時には居室でゆっくり過ごしてもらっている、しかし、面会の為に外出する機会はほとんどない。</p>	<p>一人ひとりの利用者がこれまで暮らしてきた馴染みの人や場所等は把握しており、家族の協力を得ながら、友人や兄弟に会いに行ったり、職員と一緒に出かけるときに、住んでいた場所に立ち寄り、関係が途切れないよう支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の関係を把握し、コミュニケーションを図るきっかけ作りや、トラブルを招かないよう、職員が関係を取り持つなどの支援をしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>今年度は退去者がいず、前年度の退去者は、家族が全員大阪在住の為、関係は継続できていない。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりを大切にし、日常の会話や行動などから希望などを把握し、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で利用者の思い等を聴き、出来ること、出来ないことを区別して慎重に対応している。利用者との意思疎通が困難な場合には、表情や行動などから汲みとり、家族や職員と一緒に検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に本人や家族、以前利用していたサービス担当者から生活歴などの情報を収集するとともに、入居後も、本人や家族などとの関わりの中で、新しい情報の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り時、本人の状態を職員全員で確認し、午後、本人への関わり方など記録して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時には近況報告をし、家族や本人の希望を聞き、複数の職員とアセスメントを行いケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い、見直している。	家族や本人、職員の情報をもとに、各職員は1～2名の利用者を担当してカンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画作成担当者は、利用者の能力を生かした生活支援を計画に盛り込むことを課題とし、定期的または状態変化に応じて随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアプランの結果、職員の気づきなどを記載して職員間で共有し、ケアの実践やケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の病院と併設しているメリットを活かし、本人・家族の要望に柔軟に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容店やスーパーを利用している。併設施設から車椅子対応の車を借りて、外出支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向で併設する協力病院をかかりつけ医としており、定期受診や緊急性がある時など利便性があり安心感もある。また、他科受診は家族が対応してくれており、必要に応じて情報提供も行っている。	利用者・家族は利便性と安心感から隣接の協力医療機関をかかりつけ医に希望し、受診には職員が同行して、受診結果をその都度、家族に電話や手紙で報告している。また、専門医の受診は事業所から必要な情報を提供して家族が同行し、家族から報告を受けて全職員に周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日併設する協力病院の看護師に、利用者の体調報告や相談が出来、適切な受診や看護が受けられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者と定期的に情報交換や相談する機会を持ち、病状の把握や退院時期などについて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針を入居時、本人・家族に説明し同意を得ている。協力病院と併設しており、支援体制も整っていて、本人・家族の安心を得ている。重篤となった場合、改めて家族の意向を確認し、主治医等と方針を共有しながら終末期を迎えられるよう支援している。	看取り介護に関する指針に沿って、入居時に家族へ説明し同意を得ている。重度化の時点で、医師や管理者から家族に再度説明し、意向を再確認している。その後も、状況に応じて段階的に話し合いながらチームで支援している。看取り介護の事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設する協力病院の支援体制が整っており、日頃から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設する協力病院と合同で防災訓練を実施している。避難時の利用者のネームプレートの作成、非常持ち出し用品の準備、災害時の食料などを準備し、家具も固定している。地域住民の協力は得られていない。	防火訓練を年2回、消防署の協力を得て実施している。訓練には2名の利用者が参加しているが、地域住民の参加は得られていない。消火器等の設備点検は、定期的に行い、災害に備えた非常食等は、3日以上を目安に準備している。	地域の防災訓練や運営推進会議等を通して、訓練に地域住民の参加が得られるよう、また、利用者全員参加の訓練を積み重ねる等、より実践的な訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の場面で職員同士で注意しあいながら、プライバシーを損ねず対応するよう努めている。	威圧的な言葉遣いや、くどい対応、排泄や入浴介助時の大声等の禁止を、職員に周知するとともに、そうした場面があればその都度注意している。また、居室の出入りや私物に触れる時は、利用者の同意を得ており、個人情報、事業所内外において口外しないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や関わりを大切にし、個々のペースでその人らしく暮らしてもらうよう、声かけしたり自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちを大切に、個々のペースでその人らしく暮らしてもらえるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて理容店へ行ったり、衣類等を本人と一緒に買いに行くなど、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じた力が発揮できるよう、その日の状態を見て準備や後片付けをもらっている。職員も入居者と同じものを食べ、味付けや好みなどを聞いている。	献立は利用者の好みや季節行事等を取り入れて作成している。食材の買い物、下ごしらえ、食卓の準備と片付け等を職員と一緒にやっている。食材は小さめに切り、少し柔らかくする等食べやすく調理している。食事は利用者と職員が同じ物を食べ、和やかな食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせて主食・副食の量を調整している。月1回の血液検査の結果により主治医や栄養士から指導を受けている。特に水分量が少ない利用者には、1日量をチェックし確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアを行っている。週に1回は義歯洗浄剤を使っている。ケアの拒否が強い利用者には、口腔内ウエットティッシュでふき取り、口腔内の清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツはなるべく使用せず、布パンツで生活できるよう、排泄パターンを把握し時間での誘導や仕草・行動を見ながら、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	自力でトイレに行ける利用者もいるが、その他の利用者は排泄間隔や排泄のサインに沿って、トイレへ誘導している。排泄用品は、失禁量に応じて検討しており、出来る限り布パンツとパッドで過ごせるよう、利用者の快適さを大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時にコップ1杯の白湯を飲んでもらったり、ヨーグルトを提供するなどしている。また、日常生活の中で散歩を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否をする方にも声かけを工夫して入浴する事が出来ている。また、長風呂を好む利用者にはゆっくり時間がとれるように配慮している。	入浴は基本的に午後の時間帯に行い、2日に1回は入浴できるように支援している。浴槽に入る利用者は2名で、その他の利用者はシャワー浴で支援している。着衣時の温度への配慮が十分でない場合がある。	入浴は一人ひとりの意向を大切に、くつろいだ気分で入浴できる支援が求められており、一人ひとりの利用者の入浴支援について、利用者が満足できる方法の検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて休息してもらったり、日中の活動を多くするなどして、安眠につなげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の内容については、薬内容帳で全職員が確認できるようにしている。変更があれば申し送り共有している。状態に変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな家事、得意なこと、興味のあることなど、利用者の状況にあった役割を担ってもらったり、レクリエーションなどを通じて楽しく過ごしてもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い出しに職員と一緒に出かけたり、職員同伴で散歩に行っている。食べたいメニューを事前に決め、定期的に全員で外食に出かけている。	日常的に散歩や隣家訪問、玄関先やテラスでの外気浴等、戸外で気分転換できるよう支援している。また、月1回は全員でドライブや花見に出かけ、レストラン等で昼食をとるなど、外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が小遣いを持っているが、事業所で預かっている。買い物に出かけた際には財布を渡して、なるべく自分で支払いをしてもらうよう、見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度かけるよう援助し、かかってきたときは取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行っている。季節に応じた飾りつけをするなどして、狭い空間ではあるが、和やかな雰囲気となるよう工夫している。	冬季は特に感染症対策を兼ねて清掃に力を入れ、全体の清潔を保っている。居間兼食堂は、少し手狭ではあるが、利用者が家具を支えに移動できるように工夫している。壁面には、行事の写真や季節の飾り物を施し、居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂など、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。居間には、ふたつのソファを置き、横になって過ごすことも出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者の馴染みのある品物や家具を持ち込んでもらい、利用者それぞれの個性のある居室となっている。	居室には、利用者それぞれの思いに沿って、馴染みのタンス、小物入れ、置時計、家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の立場に立った環境づくりを心がけ、安全かつ、その人に合った生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない